

前回の緊急時対応専門調査会（第21回、平成19年3月12日開催）で出された意見等（概要抜粋）と対応について

前回の資料	頁	項目	主旨	発言概要	発言者	対応状況
参考資料 1-2	1	①委員会内の考え方の再確認	緊急時に対する意識の整理のため、現状のリスク管理を勉強することが大事ではないか。	緊急時を考える上で、逆に平時とは何かというところに、既に理解の差があるのではないか。リスク管理機関がどういう対応をしているのかということを共通に理解していないところから、意識の差が生じてしまっているのではないか。 事務局職員は、ある程度リスク管理機関の対応について知っていると思うが、委員の先生方も私たち専門委員もあまり詳しくないのが現状と思う。大変失礼な提案かもしれないが、 <u>現状のリスク管理とはどういうことなのか、食中毒の現状がどういうことなのかということを、公式ではなくてもよいので、勉強しておくことが大事ではないか。</u>	春日専門委員	・今後の調査会で、リスク管理機関の対応について説明を受けるよう調整を行う。 ・第22回緊急時対応専門調査会において「18年食中毒発生状況」について、資料提供。
	2	①委員会内の考え方の再確認（危機管理に必要な考え方・技術の要点）	食品安全委員会としての危機管理に必要な考え方・技術はポイントを絞るべき。	<u>委員会として「危機管理に必要な考え方・技術」のうち、9課題を上げているが、本当にこれが食品安全委員会の現状にマッチするかどうかは、非常に疑問。「食品安全委員会」がこれを本当にできるのかどうか。もっと現実に即して、3つか4つぐらいに絞るべき。</u>	田中専門委員	・意見を受け、項目の整理を行い、資料を訂正。（別添）
	4	①委員会内の考え方の再確認（食品安全委員会の「情報提供」について）	情報はもっと早い段階から、出せるものから出す必要。	情報提供というタイミングは国民の目から見たら、 <u>できるだけ早い時期に食品安全委員会が関与しているということがわかる方がいい。</u> 必ずしも新規の情報とか食品安全委員会の独自の情報ということにこだわらなくても、出せる情報をどんどん出していくのがいいのではないか。 <u>ファクトシートとかQ & Aをいろいろな形で食品安全委員会は用意して持っている部分も多いと思うので、とにかく早い段階でそういうのを出していく方が、委員会としての動きがよく見えていいのではないか。</u>	山本専門委員	・各種の情報提供媒体を使いながら、平時からの情報提供に努めているところ。取組が不十分な部分もあるので、H19年度の訓練などを通じて、引き続き検討を行う。

前回の資料	頁	項目	主旨	発言概要	発言者	対応状況
参考資料 1-2	4	①委員会内の考え方の再確認（食品安全委員会の「情報提供」について）	一般情報で良いので、情報は早く出すべき	同じQ & A でも3年前に書いたものと同じであっても、 <u>その時点でリバイスをして、これが最新情報ですとやっていくと、周りの一般の人から見て、この食品安全委員会が何をやっているんだということについての意味がわかってくるのではないか。</u>	岡部専門委員	・情報提供のあり方については、H19年度の訓練などを通じて、引き続き検討を行う。
			情報提供の方法	その情報の提供の仕方が、例えば『Q & A は既に作ってあります』だけでなく、ある事件に対して、それをコーナーみたいのをつくって、リバイスしたものでもいいから、そこに入れて1つのものにしていく。それを細かく情報提供をしていくというようなこともあっていいのではないか。	丸山座長	・ホームページに専門のサイトを設け情報提供しているところ。取組が不十分な部分もあるので、H19年度の訓練などを通じて、引き続き検討を行う。
			内容によって、委員長談話に限らず情報提供すべき。	委員長談話の中身はどういうようなものを想定されているのか。この前はたまたま訓練だったから、ああいう委員長談話の中身だったのかなとも思うが、あの内容だと <u>委員長談話でなくても、もっと早い時期にホームページに載せた方がいい内容だったので、その辺りはどう考えるか。</u>	山本専門委員	・H19年度の訓練などを通じて、引き続き検討を行う。
	4	②緊急時対応マニュアルの実効性の向上	作業手順書を作成して具体的事項、問題点のピックアップが必要。	マニュアルの実効性の向上は重要になると思うが、実際はマニュアルに記載されていないので、 <u>作業手順書を作成して具体的事項あるいは問題点をピックアップすることも必要になると思う。</u>	元井座長代理	・現在事務局内の作業手順書を作成しているところ。
	5	④訓練の継続	マニュアルの該当部分を意識した訓練が必要ではないか。	実際訓練時にどこの部分を、どのような手法でマニュアルにしたがって行っているのかなど具体的に実感できないところがあった。 <u>訓練の現時点でどの段階のどのような問題点について実行しようとしているのか理解できるようにしておく必要があるのではないか。</u>	元井座長代理	・H19年度の緊急時対応訓練の実施において対応する。

危機管理に必要な考え方・技術の要点

- ・ 平常時における事態の想定、想像力の涵養
- ・ Proactive の考え方 = 先を見越した行動をとる、率先してやる
- ・ 情報収集・分析・統合能力
- ・ 情報の共有と認識の共有
- ・ 明確な意思決定過程、簡素な指揮命令系統
- ・ 不確実状況下での意思決定の考え方、方法の確立
- ・ 事態に応じた体制確立と連携 (役割分担の基本を決めておいて、危機時には臨機の役割分担を行う)
- ・ 対応能力分析 (平常時、緊急時)
- ・ プレス対応、住民広報＝クライシス・コミュニケーション

(改訂案)

食品安全委員会の緊急時対応における 必要な考え方・技術の要点

緊急事態への
可能性を
意識した情報
収集・分析

- ・ 幅広い情報収集と総合的な情報分析
- ・ 新たな緊急事態となる可能性のあるリスクの探知
- ・ 情報が限られている中での意思決定のあり方、その方法の確立 (明確な意思決定過程)

緊急事態にお
ける速やかな
情報共有の実
施と体制確立

- ・ 委員会内及び関係機関との速やかな情報共有と緊急時対応に関する認識の共有
- ・ 緊急事態に応じた最適な体制の確立

効果的な
情報提供

- ・ 的確なタイミングでの情報提供
- ・ わかりやすい情報提供

